

# 若者と方言 —— 八戸工業大学におけるアンケート ——

岩崎 真梨子<sup>†</sup>

## Dialect of young people Dialect questionnaire conducted in Hachinohe Institute of Technology

Mariko IWASAKI<sup>†</sup>

### ABSTRACT

This note is the result of dialect questionnaire was carried out to young people. This questionnaire is one of examining the understanding of Aomori dialect of young people. The questionnaire asked about Aomori dialect 86 words listed in the dialect dictionary. Students selected one of "1.use", "2.understood the meaning, but don't use" and "3.don't know the meaning, and don't use". Questionnaire subjects in H.I.T students mainly, the effective number of respondents is 167 people.

According to the questionnaire, dialects of Aomori picked up this time, it has been found that young people do not use on a daily basis. However, there were some dialects are recognized "shakko"("cold ") and "wa"("I"), to many students. There is significance to be continued this dialect questionnaire.

**Key Words:** Aomori dialect, dialect questionnaire, regional comparison, words of young people, Words of Tohoku

キーワード：青森方言，方言アンケート，地域比較，若者のことば，東北のことば

## 1. はじめに

東北方言は、関西方言や九州方言、北海道の方言に比べて未だあまり知られていない感があるが、東日本大震災（2011年3月11日）以降、東北地方の文化や伝統とともに周知が進められているように思われる。

では、東北地方に住む若者たちは、地元の方言や東北方言について、どのような知識を持ち、

どのように理解しているのだろうか。

東北地方の方言がどの程度学生に知られているか調査することを目的とし、本学における講義内でアンケート調査を実施した。本ノートは、そのアンケート結果をまとめたものである。

## 2. アンケート概要

### 2.1 調査語彙

アンケートに使用した方言は、佐藤亮一編『都道府県別 全国方言辞典』<sup>1)</sup>による。あ行からわ行までの方言が載せられており、品詞が極度に偏ることもない辞典であるため使用した。品詞分類に関しても、『都道府県別 全国方言辞典』の意味によるところが大きい。他に、国

---

平成 26 年 1 月 8 日 受付

<sup>†</sup> 感性デザイン学部感性デザイン学科・助教

立国語研究所『日本のふるさとことば集成 第1巻 北海道・青森』<sup>2)</sup>も参照している。

今回は、青森方言86語に関するアンケート結果について報告する。品詞に基づく内訳は以下の通りである(括弧内は辞書に掲載されている意味の引用)。°は鼻濁音を表す。

名詞 32語

あき° た(顎)・あけ° た(上顎)・あんべ(具合、状態)・えんちこ(嬰兒籠。赤ちゃんを寝かせておく籠)・おごわ(赤飯)・おどヶ° (顎)・おんじ(弟。長男以外の男子)・かぐち(裏庭)・かだこと(頑固者)・かまど(財産)・からこしゃぐ(何にでもすぐに首をつっこむ人)・からぼねやみ(なまけもの)・からやぎ(なまけもの)・けやぐ(友だち)・けり(靴)・けんど(道路)・しカ° ま(つらら)・じぐなし(臆病者)・じゃんぼ(髪)・じょっぱり(頑固者)・だらっこ(硬貨、小銭)・なづぎ(額)・にカ° (赤ん坊)・はなおど(いびき)・びだ(めんこ)・やっぱはまり(何にでもすぐに首をつっこむ人)・よのめ(ものもらい)・よのめ(魚の目)・よろた(太股)・わ(俺)・わらさど(子どもたち)・わらはんど(子どもたち)

形容詞 22語

あずましー(心地よい。快適)・あまくせ(馬鹿だ。幼稚だ)・あめくせ(食物が腐った状態。またそのにおい)・いーごった(良さそうだ)・いーんた(良さそうだ)・いだわし(もったいない)・いばだだ(奇妙だ)・おぼぐだ(横柄だ)・かちゃくちゃね(散らかっている)・さしね(うるさい)・しヶ° ね(寂しい)・しなじ(しぶとい)・しね(かたい)・しゃっこい(冷たい)・しょし(恥ずかしい)・まね(駄目だ)・め(うまい)・めヶ° せ(恥ずかしい)・めヶ° せ(正直だ)・めコ° い(可愛い)・もちよちえ(くすぐったい)・わがね(駄目

だ)

動詞 24語

あさぐ(歩く)・あずある(犬などを飼う)・ありぐ(歩く)・おカ° る(成長する)・おじる(下車する)・おどがる(目が覚める)・おどろぐ(目が覚める)・かっちやぐ(ひっかく)・かまりかむ(匂いを嗅ぐ)・きまぐ(腹を立てる。怒る)・きもやぐ(腹を立てる。怒る)・ぐだめぐ(小言を言う)・コク° (漕ぐ。藪を進む)・ごもめぐ(小言を言う。文句を言う)・ごんぼほる(だだをこねる)・しぬ(痣になる)・たでる(犬などを飼う)・ちよす(いじる)・にかむ(しわになる)・はっかめぐ(興奮して呼吸が激しくなる)・ぶちよる(痣になる)・へっかんする(いじめる)・へんかす(叩く)・やめる(痛む)

接続助詞 2語

～ども(～けれども)・～ばって(～けれども)

副詞 2語

いっとまが(ちよっとの間)・たんヶ° (すぐ)

終助詞 1語

～きや(～ね。例：んだっきや(＝そうだよね))

句 3語

おんであれ(来て下さい)・こいへ(来て下さい)・めやぐだ(感謝の言葉。ありがとう)

以上の語に対し、その方言を実際に使っている場合は「1. 使う」(以下「回答1」とする)、使わないが意味は分かる場合は「2. 使わないが意味は分かる」(以下「回答2」とする)、アンケートを見るまで全く知らなかった場合は「3. 使わない」(以下「回答3」とする)を選択し、

回答欄に番号を記入することとした。アンケート用紙は、A4裏表、2枚1組である(本ノート最後尾に参考資料として挙げる)。

## 2.2実施方法

アンケート調査は、以下に挙げる講義で行った。いずれも執筆者の担当する講義であり、特に主題別ゼミナールⅠは方言や役割語に関する講義である<sup>1)</sup>。

### 主題別ゼミナールⅠ

1学年・全学科対象 受講者47名

#### 日本語表現法

1学年・バイオ環境工学科対象 受講者21名

1学年・機械情報技術学科対象 受講者33名

1学年・システム情報工学科対象 受講者63名

### 主題別ゼミナールⅢ

2学年・全学科対象 受講者28名

その他、付属高等学校である八戸工業大学第一高等学校より2年生が体験授業に来学された際、6名にアンケートを体験して頂いた。

以上により、198名の学生の回答を得られた。このうち、有効回答数は167である。1枚目の裏面に記入のない回答や、2枚目に記入のない回答が見られ、そういった著しく回答数が少ないものは除いた。また、出身地や性別の記入がない回答についても除いた。

なお、上記のアンケートは、アンケート内容を使用する同意を得て実施した。

## 2.3アンケート対象者

先にも述べた通り、アンケート対象者は八戸工業大学の学生を中心とした、10代から20代の若者である。出身地を以下に示す(10歳までに最も

長く住んでいた地域を回答)。

### 青森県 124名

青森市7名 黒石市1名 五所川原市3名 十和田市8名 八戸市65名 平川市1名 弘前市2名 三沢市6名 むつ市3名

下北郡2名(東通村) 上北郡15名(おいらせ町・七戸町・下田町・天間林村・六戸町・六ヶ所村) 三戸郡6名(五戸町・南部町・階上町)

北津軽郡2名(鶴田町・中泊町) 西津軽郡1名(旧森田町 現つがる市<sup>2)</sup>) 南津軽郡2名(田舎館村・浪岡町)

### 岩手県 19名

盛岡市6名 奥州市3名 一関市2名 北上市1名 花巻市1名

岩手郡1名(葛巻町) 九戸郡4名(洋野町) 紫波郡1名(矢巾町)

### 秋田県 14名

秋田市1名 大館市2名 潟上1名 北秋田市1名 鹿角市1名 仙北市1名 能代市2名 湯沢市1名 由利本荘市1名 横手市1名

平鹿郡1名(大雄村) 山本郡1名(藤里町)

### 山形県 3名

上山市1名 寒河江市1名 村山市1名

### 北海道 3名

帯広市1名 函館市1名 富良野市1名

### 宮城県 仙台市1名

### 福島県 福島市1名

### 千葉県 市川市1名

### 埼玉県 北本市1名

年代別：10代 136名 20代 31名

<sup>1)</sup> 主題別ゼミナールⅠは、複数教員がそれぞれの専門に基づいた科目を設定する1学年向けの講義である。

<sup>2)</sup> 市町村が合併するなどしてなくなった場合は「旧」を付すことにした。

性別 : 男性 144名 女性 23名

以上の通り、青森県の学生の割合が高く、ほとんどが東北地方の出身である。また、男子学生と女子学生では、男子学生のほうが圧倒的に多い。年代については、18~19歳と20代前半がほとんどである。

### 3. アンケート結果

#### 3.1 全体での結果

まず、有効回答者167名のアンケートを集計した結果を以下に示す。

「回答1」の割合が高い方言を、上位10を目安に列挙する。以下の12語である。

なお、括弧内は、回答数/回答者 パーセンテージ (小数点第1位以下切り捨て) を表す。

しゃっこい (105/166人 63.2%)  
 ちょす (60/166人 36.1%)  
 ~きゃ (57/166人 34.3%)  
 わ (51/167人 30.5%)  
 もちよこちえ (36/166人 21.6%)  
 ごんぼほる (34/166人 20.4%)  
 あめくせ (33/167人 19.7%)  
 おか° る・~ども・めコ° い  
 (32/167人 19.1%)  
 かっちやぐ (31/166人 18.6%)  
 め (30/167人 17.9%)

最も割合の高い「しゃっこい」(63.2%)が、次に高い「ちょす」(36.1%)に比して、非常に高く感じられる。品詞に大きな偏りはないと思われる。

続いて、「回答2」の割合が高い方言を同様に列挙する。以下の12語である。

めコ° い (90/167人 53.8%)

わ (86/167人 51.4%)  
 かっちやぐ・じょっぱり (71/166人 42.7%)  
 ごんぼほる (70/166人 42.1%)  
 いーごった (69/166人 41.5%)  
 こいへ (65/166人 39.1%)  
 あんべ (59/167人 35.3%)  
 ~ども (58/167人 34.7%)  
 めク° せ (55/166人 33.1%)  
 おか° る・め (55/167人 32.9%)

「回答1」で上位に含まれている方言が、「回答2」でも挙がる傾向にある。12語中7語は「回答1」でも上位に挙がっている。

また、「回答1」よりも、「回答2」が選択される割合のほうが高い。

最後に、「回答3」の割合が高い方言を列挙する。以下の15語である。

へっかんする (167/167人 100%)  
 ぶちよる・にカ° (166/167人 99.4%)  
 おばぐだ (165/166人 99.3%)  
 あずある (165/167人 98.8%)  
 しカ° ま (164/166人 98.7%)  
 よのめ (魚の目)・しぬ  
 (163/167人 97.6%)  
 やっぱはまり (162/166人 97.5%)  
 へんかす・よろた (161/167人 96.4%)  
 いばだだ (160/166人 96.3%)  
 あキ° た・よのめ (ものもらい)・けり  
 (160/167人 95.8%)

「回答3」は、上位10を目安にして割合の高い方言を挙げたとき、すべての語が95%を超える。「回答1」の10位に相当する「め」が17.9%であることを踏まえると、非常に高い割合であるといえるだろう。

特に、「へっかんする」については、全員が「全く知らない」と答えている。

#### 3.2 地域差

さて、全体では3.1のようなアンケート結果（以下、結果と記す）を見出したが、地域差はあるのだろうか。先述の通り、今回の回答者は東北圏内、特に青森県出身者の割合が高いが、地域差についても考慮したい。

まず、青森県出身者の結果と全体の結果を比較する。

青森県は、八甲田連邦を境にして、太平洋側が南部地方、日本海側が津軽地方であり、それぞれ南部弁と津軽弁が用いられる。また、下北地方も両方言とは異なる特徴があるため、下北弁として区別される（平山輝男編『青森県のことば』<sup>3</sup>参照）。

青森県出身者は人数が多いため、①南部地域・②津軽地域・③下北地域に分けて結果を示す。ただし、③下北地域については回答者が6名であり、分析するのに十分な人数とは言い難い。参考として挙げておく。

また、青森県以外の地域に関しても、回答者が1名～3名の地域があり、結果に一般性を持たせることはできないが、こちらも参考に挙げる。

## I. 青森県出身者のアンケート結果（124名）

### ① 南部地域（99名）

全体の結果と同様、まず「回答1」の割合が高い方言を挙げる。

また、全体の結果にも見られる方言には囲み線   を入れる（以下同様）。

しゃっこい (65/98 66.3%)  
～きゃ (33/99 33.3%)  
ちよす・わ・いーごった (27/99 27.2%)  
もちよこちえ・あめくせ (23/99 23.2%)  
～ども (20/99 20.2%)  
ごんぼほる (19/99 19.1%)  
めこ°い (17/99 17.1%)  
おか°る・からやぎ・わがね  
 (16/99 16.1%)  
かつちやぐ (13/99 13.1%)  
あんべ (12/99 12.1%)

以上15語である。

全体の結果とほぼ変わらないが、細かな差異はいくつか指摘できる。まず、「わ」の順位がやや高く、全体の結果では「回答2」に挙げられる「いーごった・あんべ」が含まれる。

また、「からやぎ・わがね」は、全体の結果では上位に含まれない。南部弁に特有である可能性がある。

続いて、「回答2」の割合が高い方言を列挙する。以下の11語である。

めこ°い (61/99 61.6%)  
わ (60/99 60.6%)  
じょっぱり (53/99 53.5%)  
こいへ (52/99 52.5%)  
いーごった (49/99 49.4%)  
ごんぼほる (47/99 47.4%)  
～ども (46/99 46.4%)  
かつちやぐ (43/99 43.4%)  
～きゃ・めク°せ (41/99 41.4%)  
め (40/99 40.4%)

「回答2」は、全体の結果とほぼ差異がない。こちらでは、「おか°る」と「あんべ」の2語がなく、代わりに「～きゃ」が見られる。「おか°る」「あんべ」は「回答1」での割合が高い。

最後に、「回答3」の割合が高い方言を挙げる。以下の29語である。

へっかんする (99/99 100%)  
おぼぐた (98/98 100%)  
いばだた・おどケ・シカ°ま・ぶちよる・  
にカ° (98/99 98.9%)  
あずある・へんかす・やっぱはまり・  
よろた・けり・しぬ (97/99 97.9%)  
おどがる・しなじ・よのめ(魚の目)  
 (96/99 96.9%)  
からぼねやみ・よのめ(ものもらい)  
 (95/99 95.9%)

あき° た・あケ° た・えんちこ

(94/99 94.9%)

かぐち・たでる (94/98 95.9%)

めやぐだ・あさぐ・かまど・きまぐ

(93/98 94.8%)

しケ° ね (92/99 92.9%)

にかむ (91/99 91.9%)

全体の結果で上位に挙がった15の方言はすべて含まれており、それ以外にも14の方言が挙げられている。

特に、「へっかんする」と「おばぐだ」の2語は100%である。

## ② 津軽地域 (19名)

続いて、津軽地域出身者の結果を提示する。

まず、「回答1」の割合が高い方言を挙げる。以下の23語である。

しゃっこい (18/19 94.7%)

〜きや・まね・わ (17/19 89.4%)

たんケ° (15/19 78.9%)

ちよす (13/19 68.4%)

〜ばって (12/19 63.1%)

おカ° る・だらっこ・め

(11/19 57.8%)

めク° せ (10/19 52.6%)

いーんた・ぐだめぐ・めコ° い・もちよこち

え・わらはんど (9/19 47.3%)

あずましー・かちやくちやね・かつちやぐ・

けやぐ・ごんぼほる

(8/19 42.1%)

かましかむ・こいへ・さしね

(7/19 36.8%)

上位に入る方言として、全体や南部地域とは異なり、「まね・たんケ°・めク° せ・〜ばって・だらっこ・いーんた・ぐだめぐ・もちよこちえ・わらはんど・あずましー・かちやくちやね・けやぐ・かましかむ・さしね」が見られる。これらは、津軽地域に特有の方言である可能性

がある。

また、南部地域に比べると「回答1」の割合が高い(10位で36.8%である)。

続いて、「回答2」の割合が高い方言を挙げる。以下の47語である。

じよっぱり (13/19 68.4%)

あさぐ・じゃんぼ (12/19 63.1%)

こいへ・めやぐだ (11/19 57.8%)

わらはんど・あずましー・あんべ

(10/19 52.6%)

ぐだめぐ・かつちやぐ・ごんぼほる・さしね

(9/19 47.3%)

めク° せ・めコ° い・けやぐ・きまぐ・なづ

ぎ (8/19 42.1%)

だらっこ・いっとまが・やめる・あめくせ・

はなおど・おどケ° (7/19 36.8%)

め・かちやくちやね・いだわし・コク°・あ

まくせ・じぐなし・おごわ (6/19 31.5%)

ちよす・〜ばって・いーんた・もちよこち

え・はつかめぐ・おどがる・しケ° ね

(5/19 26.3%)

おカ° る・かましかむ・けんど・たでる・お

んじ・からぼねやみ・へんかす・よるた

(4/19 21.0%)

全体の結果で挙がっている方言と比較すると、「わ・いーごった・〜ども」の3語が含まれていないが、それ以外の8語はすべて含まれている。

「わ」が含まれないのは、「回答1」を選択した回答者の割合が高いためではないかと考えられる。一方、「いーごった」と「〜ども」の2語については、馴染みのない可能性がある。

回答者数が少ないことも関連すると思われるが、全体の結果よりも挙がっている方言の数が36語多い。

最後に、「回答3」の割合が高い方言を挙げる。以下の50語である。

あき<sup>°</sup> た・あずある・おじる・かまど・からやぎ・きもやぐ・にカ<sup>°</sup>・にかむ・ぶちよる・へっかんする・よのめ

(19/19 100%)

しょし (18/18 100%)

ありぐ・おぼぐだ・おんであれ・かぐち・かだこと・からこしゃぐ・ごもめぐ・めク<sup>°</sup> せ

(18/19 94.7%)

えんちこ・おどろぐ・よのめ・わらさど・シカ<sup>°</sup> ま・しぬ (17/19 89.4%)

あケ<sup>°</sup> た・けり・しなじ・しね・やっぱはまり (16/19 84.2%)

からばねやみ・へんかす・よろた・びだ (15/19 78.9%)

おどがる・しケ<sup>°</sup> ね・おんじ・～ども

(14/19 73.6%)

いーごった・いばだた (14/18 77.7%)

はっかめぐ・たでる (13/19 68.4%)

おどケ<sup>°</sup> ・おごわ・わがね

(12/19 63.1%)

なづぎ・はなおど・じぐなし

(11/19 57.8%)

全体の結果で挙がった方言はすべて含まれる。また、それ以外にも35の方言に対し、50%を超える割合で「回答3」が選択されている。

全員が「回答3」を選択した方言は12語ある。

### ③下北地域 (6名)

下北地域以降は、これまでの記述形式を変え、選択された語をすべて列挙していく。回答者数が少なく、上位に挙がる方言であっても、割合が高いとはいえないためである。

まず、「回答1」が選択された方言を挙げる。

他の青森県地域との比較のため、南部地域でも上位に含まれている方言には\*、津軽地域でも上位に含まれている方言には\*\*を付した。

\*\*あずましー・\*\*ぐだめぐ・わ・わがね

(4/6 66.6%)

あめくせ・\*あんべ・ごんぼほる・しゃっこい・ちよす (3/6 50.0%)

いだわし・いっとまが・おカ<sup>°</sup>る・かつちやぐ・きもやぐ・～きや・けんど・じよっぱり・はなおど・め・もちよこちえ

(2/6 33.3%)

\*いーごった・おんじ・\*\*かまりかむ・からやぎ・\*\*こいへ・こク<sup>°</sup> ・\*\*さしね・\*\*だらっこ・\*\*～ばって・\*\*めク<sup>°</sup> せ・やめる・わらさど (1/6 16.6%)

以上32語である。

最も割合の高い「あずましー・ぐだめぐ・わ・わがね」のうち、「わがね」は下北地域での割合が高い。

また、南部地域で上位に含まれている方言よりも、津軽地域で上位に含まれている方言のほうがより「回答1」と答えた学生の数が多い。

次に、「回答2」が選択された方言を挙げる。

\*\*かまりかむ・\*\*いーんた・まね

(3/6 50.0%)

かつちやぐ・\*\*はなおど・\*\*もちよこちえ・いーごった・～ばって・やめる・わらさど・けやぐ・たんケ<sup>°</sup> ・めコ<sup>°</sup> い・よのめ・\*\*わらはんど (2/6 33.3%)

あんべ・ごんぼほる・おカ<sup>°</sup>る・きもやぐ・\*\*けんど・じよっぱり・からやぎ・こいへ・あき<sup>°</sup> た・\*\*あさぐ・\*\*あまくせ・ありぐ・\*\*おごわ・\*\*おどがる・\*\*おどケ<sup>°</sup> ・\*\*かちやくちゃね・きまぐ・けり・\*\*じぐなし・しなじ・しね・～ども・なづぎ (1/6 16.6%)

以上39語である。

「回答2」の結果は、南部地域の結果とほぼ同じである。下北地域の結果では12語中8語が含まれている。また、津軽地域で上位に含まれた方言(\*\*)は、それを上回る13語が挙がっている。

「回答3」は、すべての方言に対し複数名が選択していた。そのうち、全員が「回答3」を選択

したのは以下の32語である。

あケ° た・あずある・いばだだ・えんちこ・おじる・おどろぐ・おぼぐだ・おんであれ・かぐち・かだこと・かまど・からこしゃぐ・からぼねやみ・ごもめぐ・シカ° ま・シケ° ね・しぬ・じゃんぼ・しよし・たでる・にカ° ・にかむ・はつかめぐ・びだ・ぶちよる・へっかんする・へんかす・めク° せ・めやぐだ・やっぱはまり・よのめ・よろた

II. 岩手県出身者のアンケート結果 (19名)

「回答1」が選択された方言は、以下の26語である。

しゃっこい (8/19 42.1%)  
 ~ども (7/19 36.8%)  
 あめくせ (6/19 31.5%)  
 ちよす (5/19 26.3%)  
 あんべ・\*いーごった・**かつちやぐ**・**め**・わがね (4/19 21.0%)  
 おごわ・~きや・**めコ° い** (3/19 15.7%)  
 こク° ・**ごんぼほる**・じよっぱり・\*\*めク° せ・**わ** (2/19 10.5%)  
**おカ° る**・おんじ・かまりかむ・きもやぐ・ぐだめぐ・ごもめぐ・\*\*たんケ° ・\*\*~ばつて・**もちよこちえ** (1/19 5.2%)

全体の結果で「回答1」の上位に含まれる語のほか、南部地域で上位に挙げた語、津軽地域で上位に挙げた語の両方が挙げられている。

「回答2」が選択された方言は、以下の51語である。

**わ** (14/19 73.6%)  
**めコ° い** (11/19 57.8%)  
 しゃっこい・**ごんぼほる** (9/19 47.3%)  
 \*\*ちよす (8/19 42.1%)  
**いーごった** (7/19 36.8%)

**あんべ**・おごわ (6/19 31.5%)  
**~ども**・かつちやぐ・~きや・**おカ° る**・~ばつて・おどろぐ (5/19 26.3%)  
 \*\*あめくせ・**め**・わがね・ぐだめぐ・\*\*じぐなし (4/19 21.0%)  
 じよっぱり・**めク° せ**・おんじ・\*\*はなおど・わらさど (3/19 15.7%)  
 こク° ・もちよこちえ・\*\*あずましー・あまくせ・ありぐ・\*\*いっとまが・おじる・おんであれ・かぐち・からこしゃぐ・\*\*けやぐ・\*\*さしね・わらはんど (2/19 10.5%)  
 かまりかむ・きもやぐ・ごもめぐ・\*\*おどがる・\*\*かちやくちやね・からやぎ・\*\*けんど・しなじ・しね・\*\*はつかめぐ・びだ・\*\*やめる (1/19 5.2%)

回答者が19名ということもあるのか、「回答2」が選択された方言の数は下北地方の39語よりも多い。

「回答3」は、すべての方言 (86語) に対し複数名の選択があった。そのうち、全員が「回答3」を選択したのは以下の36語である。

あキ° た・あケ° た・あさぐ・あずある・いーんた・いだわし・いばだだ・えんちこ・おどケ° ・おぼぐだ・かだこと・かまど・からぼねやみ・きまぐ・けり・こいへ・シカ° ま・シケ° ね・しぬ・じゃんぼ・しよし・たでる・だらっこ・なづぎ・にカ° ・にかむ・ぶちよる・へっかんする・へんかす・まね・めク° せ・めやぐだ・やっぱはまり・よのめ・よのめ・よろた

III. 秋田県出身者のアンケート結果 (14名)

「回答1」が選択された方言は、次の23語である。

**ちよす** (9/14 64.2%)  
**しゃっこい** (8/14 57.1%)



あんべ・**め** (4/14 28.5%)  
**め**コ°い・**〜ども** (3/14 21.4%)  
**おか**°る・**か**っちやぐ・からぼねやみ・**ごん**  
**ぼ**ほる・\*\*めク°せ・\*\*~ばって  
 (2/14 14.2%)  
 \*\*だらっこ (1/13 7.6%)  
 いだわし・きもやぐ・**〜き**や・けんど・コ  
 ク°・\*\*さしね・じぐなし・しょし・じよっば  
 り・**わ** (1/14 7.1%)

全体の結果で上位に含まれる語が見られるほか、津軽地域の結果で上位に含まれる語も見られるのが特徴である。

秋田県の結果では、岩手県の結果に比して津軽地域で上位に挙がった語が多く、岩手県の結果では上位に含まれた「いーごった」(南部地域の結果でも上位に含まれる)が含まれない。これは、岩手県が南部に近く、秋田県が津軽に近いためではないかと考えられる。

「回答2」が選択された方言は、以下の50語である。

**か**っちやぐ (9/14 64.2%)  
 あめくせ・**おか**°る・**わ** (6/14 42.8%)  
 \*\*おんじ (5/14 35.7%)  
**あん**べ・**め**・**め**コ°い (4/14 28.5%)  
**い**ーごった・いとまが・おごわ・かまど・  
**ごん**ぼほる・しゃっこい・**〜ども**・\*\*なづ  
 ぎ・めク°せ (3/14 21.4%)  
 あまくせ・いだわし・けやぐ・さしね・し  
 ね・しょし・ちよす・まね・やめる・わらさ  
 ぞ (2/14 14.2%)  
 あギ°た・\*\*あずましー・ありぐ・いーんた・  
 いばだだ・おどろぐ・かちやくちやね・かま  
 りかむ・\*\*きまぐ・\*~きや・\*\*ぐだめぐ・  
 \*\*けんど・**こ**いへ・ごもめぐ・\*\*じゃんぼ・  
 だらっこ・たんケ°・はっかめぐ・~ばっ  
 て・はなおど・わがね (1/14 7.1%)

「回答2」に関しては、全体の結果ならびに南

部地域の結果に見られる方言がほとんど含まれており、また、津軽地域の結果で上位に含まれる語も、7語が挙げられている。

「回答2」の結果のみ見ると津軽地域の方言が少なく感じられるが、「回答1」で津軽地域の方言の結果で上位に含まれる「いーんた・さしね・だらっこ・たんケ°・~ばって・まね」なども挙げられており、南部・津軽地域の両方の方言が知られていることが分かる。

「回答3」は、岩手県に同様、すべての方言に対し複数名の選択があった。そのうち、全員が「回答3」を選択したのは、以下の33語である。

あケ°た・あさぐ・あずある・えんちこ・お  
 じる・おどがる・おどケ°・おぼぐだ・おん  
 であれ・かぐち・かだこと・からこしゃぐ・  
 からやぎ・けり・しカ°ま・しケ°ね・しな  
 じ・しぬ・たでる・にカ°・にかむ・びだ・  
 ぶちよる・へっかんする・へんかす・めク°  
 せ・めやぐだ・もちよこちえ・やっぱはま  
 り・よのめ・よのめ・よろた・わらはんど

#### IV. 北海道出身者のアンケート結果 (3名)

「回答1」が選択された方言は、以下の5語である。

**しゃ**っこい (3/3 100%)  
**か**っちやぐ・**ち**よす (2/3 66.6%)  
 \*\*あずましー・**も**ちよこちえ (1/3 33.3%)

全体で上位に含まれる方言は、北海道出身者でも「使う」と答えるものであることが明らかになった。

「回答2」が選択されたのは、以下の18語である。

**い**ーごった・**わ** (2/3 66.6%)  
**か**っちやぐ・\*\*ちよす・\*\*あずましー・\*\*もち

よちえ・あんべ・\*\*いーんた・\*\*いっとま  
 が・おカ<sup>ろ</sup>る・おんじ・\*~きや・\*\*けやぐ・  
 ごもめぐ・ごんぼほる・じよっぱり・\*\*~ば  
 って・めコ<sup>い</sup> (1/3 33.3%)

「回答2」に関しても、ほとんどが全体あるいは南部地域、津軽地域で上位に含まれる方言である。回答者数は少ないが、引き続き調査をした場合、「回答1」「回答2」に挙がった方言は、青森県と北海道で共通して若者に理解されていることが明らかになると推測される。

また、全員が「回答3」を選択したのは、67語である。語数が多いため、列挙は省略する(以下同様)。

#### V. 山形県出身者のアンケート結果 (3名)

「回答1」が選択されたのは、以下の1語である。

ちよす (1/3 33.3%)

「回答2」が選択されたのは、以下の4語である。

\*\*ちよす・かっちやぐ (2/3 66.6%)

おカ<sup>ろ</sup>る・しゃっこい (1/3 33.3%)

全員が「回答3」を選択したのは、80語である。

山形県は、「回答1」「回答2」で選択される方言が少なく、全員が「回答3」を選択した方言が多い。

回答者が同じく3名の北海道よりも、「回答3」が選択される割合は高く、青森県からの距離の遠さが反映されているように思われる。

#### VI. 宮城県出身者のアンケート結果 (1名)

「回答1」が選択された方言はなしである。

「回答2」が選択されたのは、次の24語である。

\*\*あずましー・\*\*あめくせ・いーごった・\*\*お  
 ごわ・\*\*かまりかむ・からこしゃぐ・\*\*きま  
 ぐ・\*~きや・\*\*けんど・こいへ・ごんぼほ  
 る・じぐなし・しゃっこい・\*\*じゃんぼ・じ  
 よっぱり・\*\*だらっこ・ちよす・びだ・ま  
 ね・め<sup>め</sup>・めク<sup>せ</sup>・めコ<sup>い</sup>・わ<sup>わ</sup>・わらはん  
 ど

「回答3」が選択された方言は、62語である。

回答者が1名のため結論は出せないが、「回答2」で選択される方言は多く得られた。

#### VII. 福島県出身者のアンケート結果 (1名)

「回答1」が選択された方言は、以下の1語である。

けり

「けり」は、青森県ならびに他地域(「回答2」に含まれる下北地域を除く)では「回答3」を選択されることの多い方言である。青森県からの距離や、東北六県のなかで南部に位置していることを反映しているように思われる。

「回答2」が選択されたのは、以下の13語である。

\*\*あずましー・あんべ・いーごった・\*\*いー  
 んた・かだこと・かっちやぐ・きもやぐ・  
 \*~きや・\*\*こク<sup>こ</sup>・しゃっこい・ちよす・め  
 コ<sup>い</sup>・わ<sup>わ</sup>

「回答2」に挙げられた方言に関しては、概ね青森県でも「回答1」「回答2」が選択されるものである。ただし、「かだこと」については青森県ならびに他地域では専ら「回答3」が選択されており、「回答1」の結果でも述べた通り地理が反映されていると考えられる。

「回答3」が選択された方言は、72語である。

VIII. 関東圏出身者のアンケート結果 (2名)

「回答1」が選択されたのは、以下の1語である。

～きゃ (1/2 50.0%)

関東圏出身者が「回答1」を選択するということは、今回のアンケート結果には反映されない影響が考えられる。たとえば、両親・祖父母からの影響で使うようになった、あるいは交友関係の影響で後から使うようになったなどである。

「回答2」が選択されたのは、以下の9語である。

\*\*あさぐ・いーごった・\*\*けやぐ・しゃっこい・ちよす・\*\*～ぼって・めコ°い・\*\*もちよこちえ・わ (1/2 50.0%)

回答者は関東圏から南部地域の本学に入学した学生だが、津軽地域で上位に含まれている方言にも「回答2」が選択されている。南部地域でも同じ方言が使われている、津軽地域出身の友人と話していて意味を知ったなどの理由が考えられる。

全員が「回答3」を選択したのは、76語である。

4. まとめ

繰り返しになるが、アンケート結果についてまとめておきたい。

まず、「回答1」「回答2」「回答3」に挙げられた上位の方言の数を地域ごとに示すと、表1のようなになる。なお、「回答3」については、全員が「回答3」を選択した数を挙げる。

表1 アンケート結果 (南部・津軽地域)

	回答1	回答2	回答3
全体	12	12	1
南部地域	15	11	2
津軽地域	23	47	12

南部地域の結果は、回答者数が最も多いこともあり、全体の結果とほぼ変わらない。一方、津軽地域の結果を見ると、全体や南部地域の結果よりも上位に挙げられる方言が全体的に多かった。

下北地域以降は、回答のあった方言をすべて挙げているため、表2に示す。

表2 アンケート結果 (下北地域・他県)

	回答1	回答2	回答3
下北地域	32	39	32
岩手県	26	54	36
秋田県	23	51	33
北海道	5	18	67
山形県	1	4	80
宮城県	0	24	62
福島県	1	13	72
関東	1	9	76

岩手県と秋田県は、回答者も19名と14名で近く、「回答1」から「回答3」の結果についてもほぼ同数である。また、他地域と比較して「回答2」に挙げられる方言の数が多い点に着目される。両県において、使わないが意味は分かる青森方言は、全体の約60%程度にのぼった。

また、山形県・宮城県・福島県では、「回答1」や「回答2」が選択される方言の数が少なく、全員が「回答3」を選択する方言の数が多くなる。青森県からの距離を考えれば当然のことといえる。今回は回答者数が少ないため、今後もアンケート調査を続けていきたい。

続いて、上位に挙げた方言について検討する。

「回答1」については、全体の結果で最も割合の高かった「しゃっこい」が、どの地域でも偏りなく「回答1」および「回答2」の上位に含まれており、他地域でも広く使用される、あるいは意味を理解されているということが明らかになった。

また、それ以外の語についても、全体で挙げた語は概ね各地域でも上位に含まれている。ただし、津軽地域や下北地域では「回答 1」に異なる方言が挙がっており、南部地域とは少なからず異なる方言が使用されていることが推測される。南部・津軽・下北という地域の区分が若者にも適応されるのではないかと考えられる。

さらに、他地域で「回答 1」「回答 2」で選択された方言として、専ら津軽地域で上位に含まれる方言も含まれていることが明らかになった。本学は南部地域に位置しており、多くの学生・教職員が南部弁を使用する傾向にあると思われるが、そんななかでも津軽弁はある程度認知されているということではないかと思われる。

## 5. 八戸工業大学における方言アンケート —学生の意見・感想—

### 5.1 講義内で出された意見

2013年10月10日の主題別ゼミナールⅠの授業において、学生を5~6人のグループに分け、「辞典にある方言を、誰が、どのように使用するか」を問うたところ、以下のような意見が寄せられた。以下、「例」も学生の記述である。

- ・あげた  
家族全員使う。例：あげたを火傷した。
- ・あんべ  
祖父母が使う。例：あんべ悪い。  
口の中が良くない感じのとき、「口あんべ悪い」と言う。
- ・いーごった  
祖父母が使う。例：それはそこに置いといていーごった。
- ・おか<sup>ろ</sup>  
両親や祖父母が使う。例：立派におか<sup>ろ</sup>って。
- ・ぐだめぐ  
自分、両親、友人が使う。例：ぐだめぐな！
- ・ごんぼほる  
祖母が使う。例：〇〇がごんぼほって大変。

「やだやだ」と言う子どもに「ごんぼほってら」と言う。

- ・さしね  
父が使う。「さしね」より「さすね」と使っていることが多い。例1：あーさすね。  
祖母が使う。例2：さしねぐするな！
  - ・しね(しない)  
嘔み切れない食べ物に使う。例：この肉しない。
  - ・しゃっこい  
例：この飯まだしゃっこいじゃ。
  - ・だら  
100円などに対して母が使う。
  - ・ちよす  
例1：部屋の中ちよすなじゃ。  
例2：そればちよすなじゃ！
  - ・はなおど  
祖父母が使う。例：あーあー、こった大きなはなおどかいで。
  - ・めク<sup>せ</sup> (恥ずかしい)  
父が使う。例：めク<sup>せ</sup>からやめろ。
  - ・めコ<sup>い</sup>  
祖父が犬に対して使う。
  - ・もちよこちえ  
脇をくすぐられたときや、背中がかゆいときに使う。例：首もちよこちえ。
  - ・やめる  
母が、体の節々が痛いときによく使う。
  - ・わ  
祖父が使う。例：わのシャツどこだ。
  - ・わがね  
父が使う。例：学校サボったらわがね。
  - ・わらはんど  
会話の中で出てくる。年配の方が使っていた。
- 他にも、「辞典にないが自分や周囲の人間が使う方言」を自主的に挙げたグループがあった。次の通りである。
- ・あめた  
腐った。

祖母が使う。腐ってしまったもう食べたり飲んだりできない飲食物に「あめた」と言う。

・かっぱり

うっかり水辺（田んぼとか）に突っ込んだときに使う。

・かまる（匂いを嗅ぐ）

匂いを嗅がせるときに使う。例：かませ。

・きみ

とうもろこし。祖母や父、年配の方がよく使う。例：きみもらったして食うべ。

・ぐどあべ

祖父が使う。「ぐど」は「早く」、「あべ」は「一緒に行こう」。

・～べ

「行くべ、するべ、食うべ」のように、「～しましょう、～しよう」と人を誘うときに使う。

・ほに

怒るとき使う。例：ほにほに。

・んが

あなた、お前。親がたまに使う。

「ほに」に関しては、学生からの指摘もあった通り「本当に」からきているのではないかと思われるが、なぜ「怒るときに使う」とされているのか興味深いところである。

今回は、出身地を答えることを義務付けなかったため、どの地域の言葉であるか特定できない方言がほとんどだったが、今後のアンケートの参考にしていきたいと考える。

## 5.2 アンケート結果に対する感想

主題別ゼミナールⅠの授業内容を記述させるノートに、アンケート結果に対する感想を記述させたところ、以下の通り寄せられた（一部改変）。

- ・語尾につけるものや一人称を示すものに多くの方が反応するのは、やはり子供のころから親・祖父母あたりがその方言を日常的に使っているからだろう。逆に、固有名詞にあまり

反応がないと言うのは、使う状況が限られていて、日常的に耳にする機会が少ないからだと考える。

- ・アンケート結果を見ると、親が使っている言葉とか、意味くらいは分かる言葉が多くて、何かおもしろいなと思った。
- ・最近までしゃっこいを方言だと思ってなかった。
- ・しゃっこいを使わない人がいるのにおどろいた。

また、本学の位置する南部地域（主に八戸市）に対しては、以下のような感想が寄せられた。

- ・八戸の若い世代の人はあまり方言をしゃべらないように思う。
- ・八戸（南部地方）出身であっても津軽弁を理解していることが多いと感じた。

他に、津軽地域に対しては以下のような感想が寄せられた。津軽地域出身の学生の感想である。

- ・津軽地域のアンケート結果を見て、上位 10 の方言はすごくなじみのある言葉だと思った。他の津軽地域の人も自分と同じような言葉をよく使うようで安心した。津軽はなまりがひどいので、他の地域に比べて方言をよく使う人が多いのだと思う。

他地域の学生の青森方言に対する感想も興味深いものであった。以下、北海道出身の学生の感想を挙げる。

- ・津軽地域の方言は聞いたこともないような特殊な言葉が多い。ちなみに弘前出身の友人に初めて会ったときは何を言っているか全く分からなかった。
- ・青森の地域が同じでも「使う・使わない」、「知っている・知らない」がばらばらですご

いと思った。

- ・「～きゃ」など自分が一切使わない言葉が上位にきているのを見ると、北海道と東北では意外に差があるのだという事が分かった。

### 5.3 方言アンケートに対する感想

同じく主題別ゼミナールⅠの授業内で配布しているプリントに、「方言アンケートの実施について、どのように思いますか。感想を簡潔に書いてください。」という項目を設けたところ、以下の通り感想が寄せられた（一部改変）。

- ・自分の知らない言葉を知ることができた。普段、親や祖父、祖母が使っている言葉はこの地域の言葉だ！ということも分かったのでおもしろかった。
- ・自分の知らない方言があったり、共通語だと思っていた言葉が方言だったりと発見がありおもしろい。
- ・自分の出身県のアンケートは、2～3割ほど聞いた方言があったけれど、「使う」と答えた方言は1つもなかった。
- ・覚えようとまでは思わないけれど、ときどき面白い言葉があったり、ごくまれに知っている言葉があってまあまあ楽しいと思う。
- ・知らない方言の数が圧倒的に多かった。自分や友人、親が使っている方言がどこの地域の方言かを知ることができた。
- ・自分が住んでいる地域の方言でも知らない言葉がたくさんあった。普段からこういう方言などに触れる機会がないので、触れることができてよかった。
- ・イントネーションのアンケートはできないので、自分のイントネーションが共通語に近いのか気になった。

常日頃から方言を意識する機会が少ない学生たちにとって、方言アンケートの実施が地元や東北方言に対する興味を喚起するものとなったのであれば幸いである。

## 6. おわりに

以上の通り、講義を通して青森方言のアンケートを実施し、若者と方言との関わりについて調査、分析を行った。

今回の方言アンケート調査では、いわゆる方言辞典などに挙がっている方言は、若者にとっては日常的な語彙ではない可能性が高いのではないかという結果が得られた。ただし、「しゃっこい」や「わ」「～きゃ」など、日常的に使用される方言もいくつか見出すことができた。

また、方言アンケートに対する感想文や意識調査を見ても、本学学生にとって方言は「知らないから学ぶもの」であり、身近なものではないことが読み取れた。

しかし、これも講義を通して明らかになったことだが、「ここに本が置かさっている（置かれている）」のような、いわゆる「さる方言」や、「テレビに野球が入る（放送される）」のような方言は、本人たちが方言と気づかずに使用している。今回、多くの学生にとって使用する語彙として挙げた「しゃっこい」も、方言とは気づかずに使用している学生がいた。上記の方言を青森方言と断定することはできないが、そういった学生も使用する「気づかない方言」を列挙した方言アンケートを独自に作成して調査すると、今回とは異なる結果になると推測される。今後もこういった方言アンケートを継続して実施することで、さらに検討の範囲が広がるのではないかと考える。

## 参考文献

- 1) 佐藤亮一編：都道府県別 全国方言辞典, 三省堂, 2009.
- 2) 国立国語研究所：日本のふるさとことば集成 第1巻 北海道・青森, 国書刊行会, 2007.
- 3) 平山輝男編：青森県のことば, 明治書院, 2003.

参考資料 講義内で実施した方言アンケート

東北方言 方言調査アンケート

青森県版 あ行～か行

学科		学年	
----	--	----	--

あなたの出身地を教えてください (10歳までに、最も長く住んでいた地域をお答えください)

都・道・府・県

市・郡・町・村

あなたの年齢を教えてください (あてはまる箇所に○をつけてください)

10代 20代 30代 40代 50代 60代 それ以上

あなたの性別を教えてください (あてはまる箇所に○をつけてください)

男 ・ 女

回答の仕方

方言欄の方言に対し、

- ・その方言の意味を知っているし、使うという場合は解答欄に1を記入してください。
- ・その方言の意味は分かる／聞いたことがある (祖父母や年配の方が使うのは理解できる) が、自分では使わないという場合は解答欄に2を記入してください。
- ・その方言を全く知らないし、使わないという場合は解答欄に3を記入してください。

もしよろしければ、右端の欄にもご記入ください。

回答例

方言	地域	意味	解答欄	自分が使う言葉・補足
おとち	播磨	こわがり	3	こわがり

以下、「キ°」などの°は鼻濁音を表します。「^」と同様とお考えください。

方言	地域	意味	解答欄	自分が使う言葉・補足
あキ° た	南部	顎		
あケ° た		上顎		
あさぐ	津軽	歩く		
あずある	南部	犬などを飼う。		
あずましー		心地よい。快適。		
あまくせ		馬鹿だ。幼稚だ。		
あめくせ		食物が腐った状態。またそのにおい。		
ありぐ	南部	歩く		
あんべ		具合。状態。		
いーごった	南部	良さそうだ。		

いーんた	津軽	良さそうだ。		
いだわし		もったいない		
いとまが		ちよつとの間		
いぼだだ		奇妙だ		
えんちこ		嬰兒籠。赤ちゃんを寝かせておく籠。		
おか <sup>ろ</sup>		成長する。		
おごわ		赤飯。		
おじる	南部	下車する。		
おどがる	津軽	目が覚める。		
おどク <sup>ろ</sup>	津軽	顎		
おどろぐ	南部	目が覚める。		
おぼくだ		横柄だ		
おんじ		弟。長男以外の男子。		
おんであれ	南部	来て下さい。		
かぐち		裏庭		
かだこと	南部	頑固者		
かちやくちやね		散らかっている		
かつちやぐ		ひっかく		
かまど		財産		
かまりかむ	津軽	匂いを嗅ぐ。		
からこしやぐ	南部	何にでもすぐに首をつっこむ人。		
からぼねやみ	津軽	なまけもの		
からやぎ	南部	なまけもの		
きまぐ	津軽	腹を立てる。怒る。		
きもやぐ	南部	腹を立てる。怒る。		
～きゃ	津軽	～ね。例：んだつきゃ (= そうだよね)		
ぐだめぐ	津軽	小言を言う。		
けやぐ		友だち		
けり		靴		
けんど		道路。街道から。		
こいへ	津軽	来て下さい。		
こク <sup>ろ</sup>		漕ぐ。藪を進む。		
ごもめぐ	南部	小言を言う。文句を言う。		
ごんぼほる		だだをこねる。		

アンケートは以上です。ありがとうございました。

なお、このアンケートは、八戸工業大学における方言使用の実態を明らかにするために使用します。それ以外の用途では使用いたしません。

参考文献：『都道府県別 全国方言辞典』佐藤亮一編 三省堂

主題別ゼミナールⅠ (1学年 後期 全学科)

岩崎真梨子

感性デザイン学科／基礎教育研究センター

iwasaki@hi-tech.ac.jp 0178-25-8274(研究室)



東北方言 方言調査アンケート

青森県版 さ行～わ行

学科		学年	
----	--	----	--

あなたの出身地を教えてください (10歳までに、最も長く住んでいた地域をお答えください)

都・道・府・県

市・郡・町・村

あなたの年齢を教えてください (あてはまる箇所に○をつけてください)

10代 20代 30代 40代 50代 60代 それ以上

あなたの性別を教えてください (あてはまる箇所に○をつけてください)

男 ・ 女

回答の仕方

方言欄の方言に対し、

- ・その方言の意味を知っているし、使うという場合は解答欄に1を記入してください。
- ・その方言の意味は分かる／聞いたことがある (祖父母や年配の方が使うのは理解できる) が、自分では使わないという場合は解答欄に2を記入してください。
- ・その方言を全く知らないし、使わないという場合は解答欄に3を記入してください。

もしよろしければ、右端の欄にもご記入ください。

回答例

方言	地域	意味	解答欄	自分が使う言葉・補足
おとち	播磨	こわがり	3	こわがり

以下、の「ヶ°」などの°は鼻濁音を表します。「ゝ」と同様とお考えください。

方言	地域	意味	解答欄	自分が使う言葉・補足
さしね		うるさい。		
しカ°ま		つらら。		
じぐなし		臆病者。		
しヶ°ね		寂しい。		
しなじ		しぶとい。		
しぬ	津軽	痣になる。		
しね		かたい。		
しゃっこい		冷たい。		
じゃんぼ		髪。		
しょし	南部	恥ずかしい。		
じょっぱり		頑固者。		

たでる	津軽	犬などを飼う。		
だらっこ		硬貨。小銭。		
たんケ°	津軽	すごく。		
ちよす		いじる。		
〜ども	南部	〜けれども。		
なづぎ		額。		
にカ°	南部	赤ん坊。		
にかむ		しわになる。		
はっかめぐ		興奮して呼吸が激しくなる。		
〜ばって	津軽	〜けれども。		
はなおど		いびき。		
びだ		めんこ。		
ぶちよる	南部	痣になる。		
へっかんする	南部	いじめる。		
へんかす	津軽	叩く。		
まね	津軽	駄目だ。		
め		うまい。		
めク° せ	津軽	恥ずかしい。		
めク° せ	南部	正直だ。		
めコ° い		可愛い。		
めやぐだ		感謝の言葉。ありがとう。		
もちよこちえ		くすぐりたい。		
やっぱはまり	津軽	何にでもすぐに首をつっこむ人。		
やめる		痛む。		
よのめ	津軽	ものもらい。		
よのめ	南部	魚の目。		
よろた		太股。		
わ		俺。		
わがね	南部	駄目だ。		
わらさど	南部	子どもたち。		
わらはんど	津軽	子どもたち。		

アンケートは以上です。ありがとうございました。

なお、このアンケートは、八戸工業大学における方言使用の実態を明らかにするために使用します。それ以外の用途では使用いたしません。

参考文献：『都道府県別 全国方言辞典』佐藤亮一編 三省堂

主題別ゼミナールⅠ（1学年 後期 全学科）  
 岩崎真梨子  
 感性デザイン学科／基礎教育研究センター  
 感性デザイン専門棟 K212  
 iwasaki@hi-tech.ac.jp 0178-25-8274(研究室)

## 要 旨

本ノートは若者が地元の方言をどの程度使用、理解しているかをアンケートによって調査し、結果をまとめたものである。

アンケートは、方言辞典に掲載されている青森方言 86 語について、「1. 使う」「2. 使わないが意味は分かる」「3. 使わない」のいずれか 1 つを選択させるというものである。アンケート対象者は主に本学学生で、有効回答数は 167 である。

結論として、今回取り上げた方言は、若者にとって日常的な語彙ではない可能性が高いことが明らかとなった。ただし、「しゃっこい」「わ」など、多くの学生に認知されている方言もいくつか見出せた。継続して実施することで有意義なアンケートとなるのではないかという展望を得た。

**キーワード:** 青森方言, 方言アンケート, 地域比較, 若者のことば, 東北のことば

